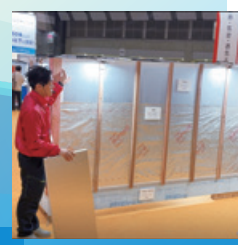


第106期 報告書

2025年4月1日～2026年3月31日



掲載画像の詳細はこちら



○ トップメッセージ Top Message

株主の皆様には平素は格別のご支援を賜り深く感謝申し上げます。ここに当社グループの第106期の報告書をお届けいたします。

当連結会計年度における世界経済は、米国では個人消費が底堅く推移し、生成AI向けを中心とした設備投資にも支えられ、堅調に推移しました。欧州においても、賃金上昇や物価の安定を背景に緩やかな回復が見られました。一方、中国では、個人消費の伸び悩みや不動産不況の継続により、景気回復の遅れが見られました。

日本経済は、原材料価格やエネルギーコストの高止まりに加え、為替相場の変動、米国の通商政策の影響、さらには中東情勢の緊迫化などにより、先行き不透明な状況が継続しました。

このような事業環境のもと、当社グループは、世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバルソリューションプロバイダー』を長期的な目標に掲げ、それを見据えた3カ年の方向性を示す『中期経営計画-FY25～FY27-』を策定しました。社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切に、様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献することを目指し、3つの全社戦略①選択と集中の徹底、②新たな価値の創造、③グローバル戦略の推進を柱に、人材力や生産性・技術力等の事業基盤の高度化に取り組むとともにサステナビリティ経営を推進し、収益力の再構築・強化に取り組んでまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績は、売上高81,802百万円（前期比3.4%増）、営業利益2,972百万円（前期は436百万円の営業損失）、経常利益3,919百万円（前期は220百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純利益2,116百万円（前期比394.7%増）となりました。

なお、足元では中東情勢の緊迫化に伴う原油やナフサの調達環境への影響、エネルギー価格の高騰、物流コストの上昇、サプライチェーンの混乱に加え、為替レート的大幅な変動なども懸念されており、不確実性の高い事業環境が続くものと想定しております。当社グループは、ナフサ由来のプラスチックを原材料とする製品の製造・販売を行っていることから、これらの動向が原材料調達、原材料価格および製造活動に影響を及ぼす可能性があります。

このような状況のもと、当社グループは、原材料調達について代替調達含めサプライヤーと連携し影響の最小化に努めております。また、原材料価格やエネルギー・物流コストの上昇に対しては、今後の世界経済および関連市場の動向を注視しつつ、原価低減活動や販売価格への適正な転嫁等により、利益の確保に努めてまいります。

『中期経営計画-FY25～FY27-』を通じて当社グループの企業価値向上・持続的成長に邁進するとともに、中東情勢緊迫化による事業への影響の最小化に努めてまいりますので、株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

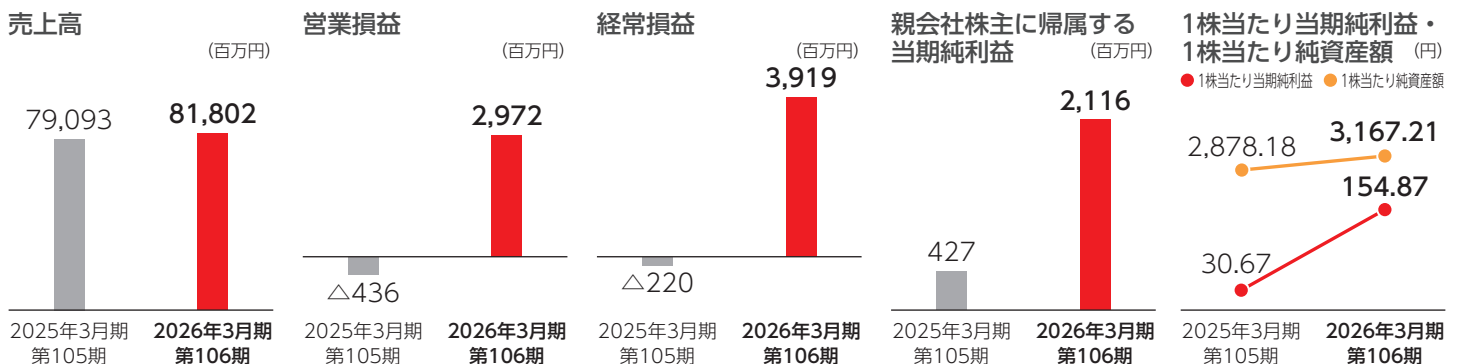
日景一郎

2026年6月

○ 連結財務ハイライト Financial Highlights

決算数値等の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.achilles.jp/ir/>



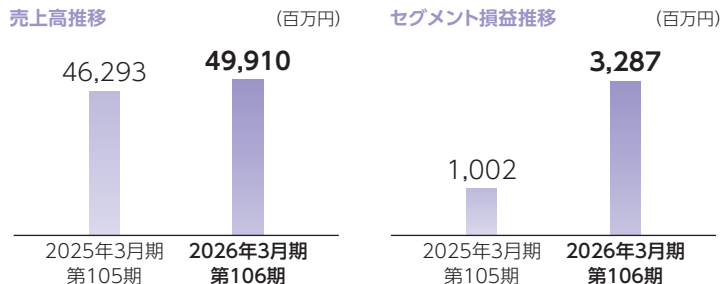
第一事業部

車輻資材BU、化成品BU、ウレタンBU、工業資材BU

売上構成比
61.0%

■売上高 49,910百万円 (前期比 7.8%増) ■セグメント損益 3,287百万円 (前期比 228.0%増)

- 車輻資材は、航空機向けが堅調に推移したが、自動車向けが中国での日系自動車メーカーの減産の影響を受け、前年売上を下回る。
- フィルムは、メディカル分野向けが大きく伸ばしたことに加え、エレクトロニクス分野向けも堅調に推移し、前年売上を大きく上回る。
- ウレタンは、雑貨用が堅調に推移し、車輻用も回復基調となったが、寝具用が低調に推移し、前年売上を下回る。
- 工業資材は、半導体ウエハー搬送用および製造工程用部材の伸長と、医療機器向けRIM成形品が堅調に推移したことにより、前年売上を上回る。



▶第一事業部全体では、収益性の高いメディカル分野向けフィルムおよび工業資材の増収に伴う売上総利益の増加に加え、製造現場における原価低減活動を通じた原価率改善により増収増益。

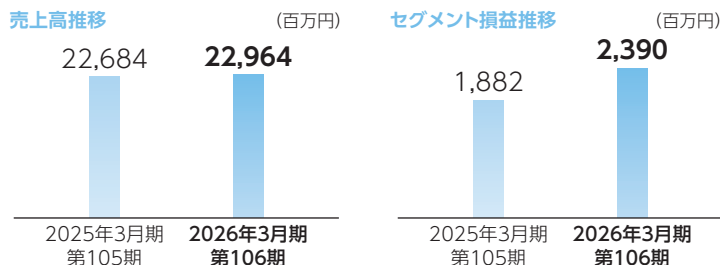
第二事業部

断熱資材BU、建装BU、防災BU

売上構成比
28.1%

■売上高 22,964百万円 (前期比 1.2%増) ■セグメント損益 2,390百万円 (前期比 26.9%増)

- 断熱資材は、ボード製品がシート防水用途をはじめとする非住宅分野で堅調に推移したこと、システム製品の工事案件が増加したことおよび販売価格の改定により、前年売上を上回る。
- 建装資材は、住宅市場の低迷が続く中、販売価格の改定等により、前年売上を上回る。
- 防災対策商品は、国内でのテント・マットなどの防災製品、米国でのポット製品、中国での引布原反が好調に推移し、前年売上を上回る。なお、当社防災事業に係る固定資産について、当初の事業計画で想定していた収益の達成に遅れが生じており、計画の達成に時間を要すると判断したことから減損損失を計上。



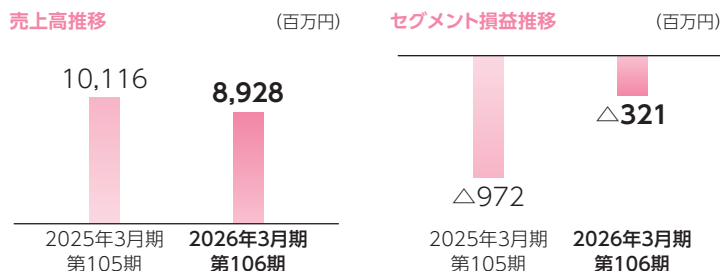
▶第二事業部全体では、断熱資材および建装資材の増収に伴う売上総利益の増加により増収増益。

シューズBU

売上構成比
10.9%

■売上高 8,928百万円 (前期比 11.7%減) ■セグメント損益 △321百万円 (前期は △972百万円)

- コンフォートシューズブランド「アキレス・ソルボ」およびランニングシューズブランド「BROOKS (ブルックス)」において、健康志向の高まりやライフスタイルの変化に対応した新製品を投入。
- 主力ブランド「瞬足」では、滑りに配慮した防水モデルなど機能性を高めた新製品の投入に加え、コスト環境の変化に対応した価格改定を実施。
- 全体では、少子化や百貨店不振などを背景とする消費低迷の継続や価格改定の影響等により減収。
- セグメント損益は、コスト環境の変化に対応した価格改定に加え、調達コストの見直しおよび経費削減等の一層のコストダウン活動により損失額が大幅改善。



注記 「中期経営計画-FY25~FY27-」に掲げた3つの全社戦略の実現に向けた組織再編の実施に伴い、報告セグメント区分を従来の「シューズ事業」、「プラスチック事業」、「産業資材事業」から「第一事業部」、「第二事業部」、「シューズBU(ビジネス・ユニット)」に変更しております。

「DATA CENTRE WORLD ASIA 2025」出展

2025年10月8日から9日にかけてシンガポールのマリーナベイ・サンズで開催された、アジア最大級のデータセンター業界イベント「DATA CENTRE WORLD ASIA 2025」に出展しました。

データセンター需要が世界的に高まる中、本展示会において当社は機能性間仕切りフィルムをはじめ、ウエハー搬送システムや衝撃・振動対策用の衝撃吸収素材「SORBOTHANE(ソルボセイン)」を中心に全社横断的な展示を実施しました。これにより、当社の幅広い技術力をアピールするとともに、データセンターに関する各国のニーズや市場トレンドなどの今後の事業展開に繋がる有益な情報を収集することができました。

今後も中期経営計画の全社戦略に基づき、全社横断的な取り組みを推進するとともに、グローバル事業のさらなる拡大・強化に注力してまいります。

展示会の様子



当社スチレン製品が株式会社パリミキの新ブランド眼鏡向け製品展示用ディスプレイに採用

大手眼鏡チェーンストアである株式会社パリミキの新ブランド眼鏡「by eye (バイ アイ)」向け製品展示用ディスプレイに、当社スチレン製品が採用されました。

今回の取り組みは、株式会社パリミキがディスプレイ素材としてスチレン製品に興味を持ち、当社にご連絡いただいたことをきっかけに実現したものです。当社は、スチレン製品の特性である加工性の高さを生かしてご要望の形状に加工するとともに、表面にポリウレタ塗料を塗布することで強度を高めるだけでなく高級感を持たせることに成功し、ご採用いただくこととなりました。

今回の試みは、スチレン製品の魅力や用途の幅広さを知っていただく貴重な機会となりました。今後も新たな用途展開に挑戦し、スチレン製品の拡販に努めてまいります。

店舗での展示の様子



TVアニメ「名探偵コナン」30周年記念!大人気コラボシューズを再販

ジュニアスポーツシューズブランド「瞬足」から、TVアニメ「名探偵コナン」30周年を記念して、コラボシューズ「名探偵コナン」キック力増強シューズを再販します。

2018年の発売時に大きな反響をいただいた本製品は、多くのお客様からのご要望にお応えする形で、この度の再販が決定しました。作中で主人公の江戸川コナンが使用する「キック力増強シューズ」を忠実に再現し、側面のダイヤル型パーツを回すと音が出る仕組みとなっており、作品の世界観を体感することができます。また、今回のために描き下ろされたコナンのイラストを使用した特別カートン、アクリルスタンドも付属しています。

本製品は、2026年7月から全国のアニメ・ホビーショップ、量販店等でお求めいただけます。



名探偵コナン

会社概要 / 株式の状況 Corporate Date/Stock Information

● 会社概要 (2026年3月31日現在)

社名	アキレス株式会社
設立	1947年5月
資本金	14,640,795,671円
従業員数	1,175名
本社	〒169-8885 東京都新宿区北新宿二丁目21番1号 新宿フロントタワー
関西支社	〒530-0005 大阪市北区中之島二丁目2番7号 中之島セントラルタワー23階
営業所	北海道営業所 / 九州営業所
工場	足利第一工場 / 足利第二工場 滋賀第一工場 / 滋賀第二工場 美唄工場 / 九州工場
連結対象子会社	ACHILLES USA, INC. 阿基里斯(上海)国際貿易有限公司 アキレスコアテック株式会社 関東アキレスエアロン株式会社 大阪アキレスエアロン株式会社 その他14社

● 役員および執行役員 (2026年6月26日現在)

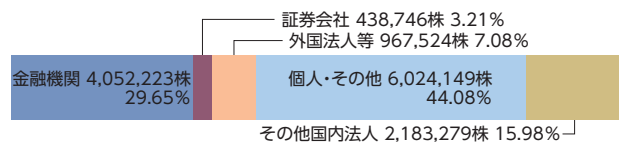
役員一覧は、当社ホームページをご覧ください。
<https://www.achilles.jp/company/executives/>



● 株式の総数等 (2026年3月31日現在)

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	14,562,714株
株主数	10,338名

● 株式分布状況 (2026年3月31日現在)



注記 上記のほか、当社保有の自己株式896千株があります。

● 大株主 (2026年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,324	9.69
東京アキレス協和会	820	6.00
大阪アキレス協和会	553	4.05
株式会社みずほ銀行	496	3.63
足利アキレス協和会	481	3.53
朝日生命保険相互会社	431	3.16
岡 秀朋	421	3.08
株式会社足利銀行	343	2.51
セコム損害保険株式会社	315	2.31
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	253	1.86

注記 上記のほか、当社保有の自己株式896千株があり、持株比率は自己株式を除いて算出しております。

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会	6月中
単元株式数	100株
株主名簿管理人 / 特別口座管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物の送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話番号	0120-288-324
ホームページ	https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html



公告方法 電子公告 (<https://www.achilles.jp>)
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

株主アンケート

みなさまの **声** を
お聞かせください
<https://koekiku.jp>

アクセスキー in1Yk31

アンケート回答期間：
 2026年6月26日～
 2026年8月25日
 所要時間：約10分

抽選で500円分の
 ギフト券を進呈!



サービス運営会社：株式会社プロネクサス
 お問い合わせ：コエキク事務局
koekiku@pronexus.co.jp



IR情報をリニューアルいたしました

当社ホームページ「IR情報」内にアキレスをより知っていただくため、主に**個人投資家の皆様**に向けた**情報ページ**を開設いたしました。
株主優待についてもご案内しておりますのでぜひご覧ください。



「個人投資家の皆様へ」はこちら
<https://www.achilles.jp/ir/individual/>

